



# ミャンマー人ガラボーター

NPO法人  
**日本・ミャンマー  
 医療人材育成支援協会**  
 〒700-0811  
 岡山県岡山市番町2丁目6番7号  
 TEL:086-224-0102  
 URL:http://www.mjcp.or.jp

私の岡山大学薬学部への赴任は2001年1月1日です。覚えやすい日で、岡山大学での在籍年数はすぐに計算できます。今年が7年目です。しかし、私は生まれも育ちも岡山で、大学院修士課程を修了するまでは岡山で、親戚、ご先祖様方々皆岡山ですので、岡山は詳しいです。

なぜこの様な書き出しになったかと申しますと、ビルマと言う国は岡山の田舎(赤磐郡吉井町)の出身の私にとりまして、遠い、遠い国ではありましたが、親近感を持つていた国でもありました。と言いますのも、幼少のころ家の人たちが話す会話の中にビルマとかイラワジ川と言う言葉を聞きつけ、子供心に遠い異国でありながら身近に感じていた土地だからです。今思ひだしてみますと、

## ミャンマー雑感

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・薬学系・教授  
 NPO法人 日本・ミャンマー医療人材育成支援協会 理事

### 岡本 敬の介



▶バガン近郊でのイラワジ川。美しく、穏やかでした。

第二次世界大戦の折、岡山の連隊がビルマに派遣され、その時、軍医であった叔父もビルマへ行きました。しかし戦局が不利となり、撤退する折にイラワジ川を泳いで渡つて逃げたのだと思います。その時多くの人が流れにのみ込まれ、亡くなったそうです。叔父は幼少の頃古里の滝山川(吉井川の支流)で、夏には一日中泳いで遊んでいたのが水泳を覚え、そのおかげで命が助かったと言う話を、家の人から聞

き、「ビルマ」、「イラワジ川」という地名に親近感をもっていたのだらうと思います。時は流れて2001年になるのですが、私は下痢を起す細菌の研究を続けて来ましたが、それこそ大学生の時からです。30年以上になります。薬学部で下痢を起す細菌の研究と言え、すぐに「下痢を治す薬」の研究ですかと聞かれます。「いやそうではなくて……」と、研究内容を説明するのに、これまた時間を要します。ここで改めて簡単に言えば、「どうやって下痢をなおすか」ではなくて、「菌に感染するとどうして下痢がおきるか?」を研究しています。いわゆる基礎研究で、治療に直結する研究ではありません。でも基礎研究が土台となり、やがて科学、医学は進歩します



▲ヤンゴン医科大学微生物教室の方々と。(左から3番目が筆者)

ので、それはそれでよいのですが、現実には東南アジアの国々には下痢患者、特に乳幼児の患者は多く、さらにそれがもとでの乳幼児の死亡者も多く、悲惨です。下痢を起す細菌の研究を長い間行っているのですから、少しはこれらの患者さんやこの地域に直接貢献することもしなくてはいけないと感じていました。そのころ岡山大学に着任となりました。

着任後、岡田先生から声をかけていただき、小出先生の岡山大学の学内COE研究班にも入れていただき、ミャンマーに行くチャンスに恵まれました。ですから私のミャンマー訪問は平成17年12月からと、比較的新しいです。最初の訪問でヤンゴンからマンダレーへと訪ね、旧日本軍が本拠地を置いていた王宮のそばに立ち、またイラワジ川をみたときは、ここが昔聞いていた地なのかと、改めて感慨深いものがありました。

さて実際にヤンゴンやマンダレーの細菌学研究室を訪れてみますと、施設、設備はまだ整ってなく、いくばくかの機器があっても「それを稼働させる試薬がない」、「技術がない」と、機器を使いこなせる段階でないことがわかりました。これらの細菌学関係の研究室が一定レベルに達するには相応な援助が必要です。

こういった経済的な援助する力もない自分が、「この国の人達の役に立つことができるのか?何をしたらよいのか?」が大きな命題となってきました。ミャンマーへは2回だけの訪問ですが、それでも色々な事を話しているうちに、気心も知れ、友人もできました。幸いなことに、科学研究費補助金にミャンマーでの細菌調査を申請したところ、採択されました。今、ミャンマーの友人に私ができることと言えば、この研究費を使つての共同研究ぐらいです。限られた予算で、ミニ交流ではあります。今しばらくはミヤ

ンマーの友人達と共同研究を続け、彼らと将来につながるよりよい関係が築ければと願っています。

話はとんでインドへいきませんが、平成19年度の文科省の新興・再興感染症海外拠点形成プログラムに、インド・コルカタ市の「コレラ及び腸管感染症研究所」に、「岡山大学インド感染症共同研究センター」を設置するプログラムが採択されました。今開設準備をすすめています。9月にはセンターが稼働を始める予定です。インドとミャンマーは、間に

## 野崎明司法書士事務所

tel: **086-273-2225** fax: 086-273-2106

**STAFF**

司法書士・行政書士 野崎 明  
 司法書士 中谷 清子  
 土地家屋調査士 太田 正孝  
 税理士・行政書士 保都 直良  
 公認会計士・税理士 石村 顕示

登記・測量・破産・少額訴訟・遺言・成年後見・監査・税務(相続・贈与・売買)等、お気軽にご相談下さい。

〒703-8233 岡山市高屋219番地14  
 homepage address: <http://www.office-nozaki.com>  
 E-mail: [info@office-nozaki.com](mailto:info@office-nozaki.com)

バン格拉デイシュをはさんでの位置関係で、非常に近い国です。現にインディアン航空のコルカタバンコック便にはヤンゴンに途中停車する便があります。この途中下車の機会などをフル活用し、インド、ミャンマー両国との友好を深めることができると期待しています。



▲パゴダのある風景





私の一生で記念すべき10週間は2007年の1月11日に始まり3月25日に終わりました。私は子宮頸部の細胞診(訳者注:子宮癌で最も多い子宮頸癌の早期診断は細胞診でスクリーニングする。ミャンマー女性の癌死亡では子宮癌は乳癌と並ぶ。)の高度な技術を研修する機会を得たのです。研修した場所は日本の1つの町ですが、首都ではありません。その町にいた途端びっくりすることはわかりました。町は若い人達、歳をとった人達で一杯であり、その人達はとても速く、しかし静かに歩いていることに私は本当に驚きました。

私は閑空で飛行機を降りてから、在来線と新幹線に乗って予定地岡山に着きました。岡山駅からは岡田先生(私の研修プログラムの責任者)の後について歩きました。閑空からアパート

までの間でも私の注意をひくことが沢山ありました。中でも、列車を待つときは、いくら急いでいても日本人は行列を作ってキチンと順番を守ることや、日本人は信号が青にならないければ道を横切らないことです。

私は日本の初日から3つのことを学びました。速く歩くこと、列を作って待つこと、青信号まで待つことです。私が滞在した美しい町は、清潔、静かで周囲に丘が見えます。研修には2つの病院と2つの大学に通いました。岡山協立病院、倉敷芸術科学大学、そして岡山大学医学部です。

て写真を撮って貰いました。これらは済生会病院の浜家先生が準備して下さいました。先生は思いやりのある方で、3週間の研修の間、とても優しくしてくださいました。私がこの病院での研修を終え、皆さんにさようならを言ったときは本当に悲しかったです。

私は行く場所ごとに新しい興奮を覚えました。済生会病院では子宮頸部の細胞診と組織診を学びましたが、それだけではありません。日本の伝統的な茶道を楽しみ、日本の着物を着

て写真を撮って貰いました。これらは済生会病院の浜家先生が準備して下さいました。先生は思いやりのある方で、3週間の研修の間、とても優しくしてくださいました。私がこの病院での研修を終え、皆さんにさようならを言ったときは本当に悲しかったです。

私は行く場所ごとに新しい興奮を覚えました。済生会病院では子宮頸部の細胞診と組織診を学びましたが、それだけではありません。日本の伝統的な茶道を楽しみ、日本の着物を着

パニコ染色(訳者注:細胞診の染色法。)を実際に自分の手で染める機会が訪れました。それは私にとってまたとない良い機会でした。(訳者注:普通は技師が染めるので、医師がそれを行う機会は無いが、染色の良悪を識別するためには医師も染め方を熟知していなければなりません。)そして、最後の週には免疫組織化学(訳者注:細胞内の様々な物質を特定する方法。これにより癌細胞の発生源を見つけ出すことができる。)の染色法を学びました。この3週間はあるという間に過ぎてしまいました。そして、協立病院の心優しい豊田先生と素晴らしい技師の方々とお別れしなければなりませんでした。

最後にいくところは岡山大学病院でした。そこでは私は難しいことにチャレンジすることになっていました。パニコ染色のための染料カクテルを作ることです。(訳者注:日本ではこのカクテルは既成のものが容易に手にはいるが、ミャンマーではそれが不可能なので、自分で個々の染料を混ぜて作ることを実習してもらった。)この大学の技師の方々に助

けられて、私は綺麗な染色のできる染料カクテルを作ることが出来ました。岡田先生の許しを得て日本で最後の3日間東京に行くことが出来ました。私は有名なデイズニランド、東京タワーなどよく知られている場所に行きました。しかし、東京は忙しくて、喧噪な町で、私が過ごした岡山の町より素晴らしいとは思いませんでした。

これらの総ては岡山の10週間です。実際に有ったこと。注:グ・ワー・ミンは30歳で、国立医学研究局(中部ミャンマー)の女性病理医。

**ミャンマー研修旅行のお知らせ**

8月17日(金)〜21日(火)の4泊5日で、「第3回ミャンマー」を計画しております。岡山発着で、定員は20人。先生方も同行します。旅行会社は読売旅行です。

お問い合わせ・お申し込みは、西山(携帯090-8998-11508)まで。お気軽にどうぞ。

**広報室から**

やはり地球温暖化の影響なのでしょか、今年は春を飛び越すようにして夏が訪れたようです。皆様にはご健勝のことと存じます。私たちの活動も2年目を迎えました。昨年度は会員の皆様を募って2回のミャンマー研修ツアーを行い、現地の状況を肌で感じる事ができました。国際関係では色々報道されていますが、彼の国の人たちは、そんなことには全く関係なく、心優しい微笑とともに、家族や友人と支えあいながら毎日を過ごしています。そして、それらの人々の

ほとんどは、私たちの活動を知ることはありません。しかし、会員各位の善意は着実に現地で花を咲かせ、「健康」という果実を実らせ始めています。岡山に来た研修生たちは、抱えきれないほどの種を持ち帰りました。やがて見事な花を咲かせることでしょう。

2年目を迎えました。皆様のご理解とご協力、会員の輪を広げていただきたいと存じます。どうぞ、よろしくお願い致します。向暑の朝、ご自愛のほど。(西山)

**ミャンマーの民族**

- チン族 (Chin)
- ジンポ族 (Jinhpo)
- ラウン族 (Rakhine)
- シャン族 (Shan)
- カヤー族 (Kayah)
- カレン族 (Karen)
- モン族 (Mon)
- ビルマ族 (Burmese)
- アカ族 (Aka)
- カイン族 (Kayan)

**百珍麺**

身体のためによいものです。基本は医食同源。

4種入パック...1,500円  
2種入ケース...800円  
ギフト箱...3,000円

ご注文・お問い合わせは  
**TEL086-221-2555 FAX086-221-2554**

不動産業  
**株式会社 晴れの国研究所**

代表取締役 **古武義章**

〒701-4221 岡山県瀬戸内市邑久町尾張350-5  
電話(0869)22-9800 FAX(0869)22-9810  
携帯 090-1689-8907